

だい き とん だ ばやし し がいこくじん し みるかい ぎ  
第 1 期 富田林市外国人市民会議

ていげんしょ  
提言書

わたし くら する ところ とん だ ばやし し わたし たち が 伝えたいこと  
私たちが暮らしている富田林市に、私たちが伝えたいこと

ねん がつ  
2024年2月

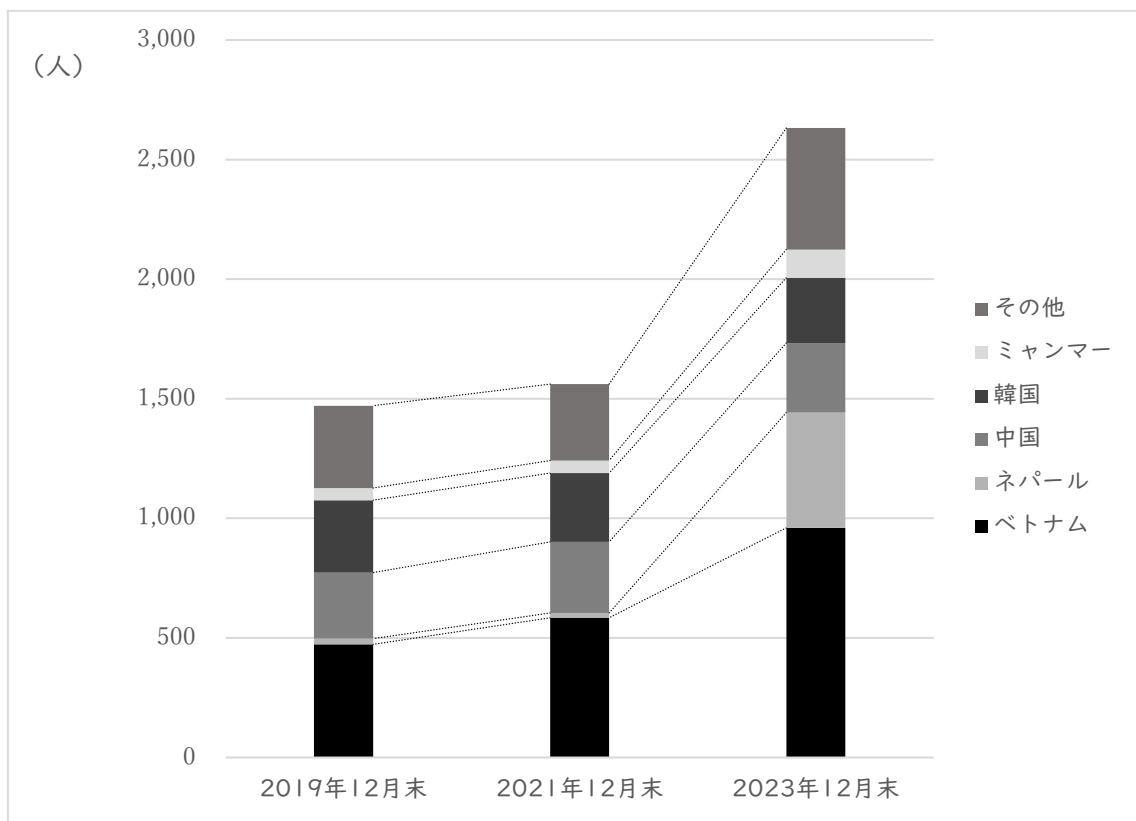
# もくじ 目次

はじめに	1
● 富田林市で生活している外国人市民について	2
● 富田林市外国人市民会議について	3
● 会議のテーマ —— 「外国人市民への情報提供のあり方」	4
● 提言の趣旨	5
提言	7
1. 外国人市民が必要としている情報	8
受けることができる支援やサービスの情報	
日本の法律や制度、富田林市での生活に必要な情報	
2. 外国人市民に情報を提供する方法	10
多言語や「やさしい日本語」での情報提供	
「誰一人取り残さない」ユニバーサルデザインの考え方を	
情報を確実に届けること	
3. これからの外国人市民会議	13

はじめに

# 富田林市で生活している外国人市民について

富田林市の人口は2023（令和5）年12月末の時点で107,342人です。そのうち2.5%にあたる2,632人が外国籍をもちています。国籍別では、ベトナム、ネパール、中国の順に多く、全部で43の国と地域の人々が生活しています。富田林市では外国籍をもち市民が増えています。また、それ以外にも、例えば日本国籍で海外につながりのある市民（海外出身で日本国籍を取得した人など）も生活しています。



外国籍をもち市民の人口

## 富田林市外国人市民会議について

富田林市では、「多文化共生推進指針」を策定し、誰もが国籍や民族にかかわらず、地域の中でお互いを尊重しながら共に生きていくことのできる、「多文化共生のまち」の実現をめざしています。

そして、まちづくりについて外国人市民と一緒に考えていくため、市は2021（令和3）年に「外国人市民会議」を設置しました。

第1期会議には、2021（令和3）年度から3年間の任期で、富田林市在住・在勤の外国人市民7人が委員として参加しています。

### 第1期 外国人市民会議 委員名簿

役職	名前	国籍 または ルーツ
	ヴェーティガン	ベトナム
	梁 志賢	台湾
	内海 チャンズン	ベトナム
副座長	Tokunaga Lita	ペルー
	LUONG SY TAN	ベトナム
	孟 憲亮	中国
座長	高 麗晶	中国

## 会議のテーマ — 「外国人市民への情報提供のあり方」

近年、富田林市に生活する外国人市民は急速に増加しており、それぞれの国籍や民族、言語、文化的背景も多様化しています。

このような状況の中で、第1期会議では「外国人市民への情報提供のあり方」をテーマに、3年間かけて委員がそれぞれの立場から意見を出し、話し合ってきました。

多くの外国人市民には、「病院で日本語で説明されたことが分からない」「市役所や学校からの手紙が読めない」など、さまざまな場面で《ことばの壁》があります。また、ことばだけでなく、「出身国との文化や習慣のちがい」「法律やルールのちがい」などにより、「日本人にとって当たり前」のことをそもそも知らなかった」ことで困ることもあります。

一方、外国人市民同士のコミュニティ内での情報交換や、SNS (Social Networking Service) などの活用により、情報を入手している場合もあります。

そのため、この会議では、主に次のことについて話し合いました。

- 外国人市民が必要としている情報
- 外国人市民に情報を提供する方法

## 提言の趣旨

---

外国人市民が日本で生活する中では、「知らない」「分からない」ことで困ることが多くあります。会議においても、委員からは、日本に来て出身国とのちがいに驚いたこと、日本の法律や制度を知らなくて困ったことなど、さまざまな経験談が挙げられました。このような困りごとは、正しい情報さえあれば解決することができます。

知らなければ困ることについては情報提供して、同じように困る人を減らすことが、大切です。会議の中では、これまでに実際に困った経験のほか、今必要としている情報や、課題解決のためのアイデアについて話し合ってきました。

特に市役所からは手紙、広報誌、ウェブサイト、SNSなどを通じて、市民に向けてたくさんの情報が発信されます。また、市役所は、分からないことや困ったことがあるときの相談先でもあります。

市内には多様な背景をもつ市民が生活しているとの認識のもと、「外国人市民への情報提供のあり方」について改めて考え、市が進める多文化共生のまちづくりに活かしてもらえることを願い、この提言をまとめました。





## ていげん 提言

1. 外国人市民が 必要としている 情報
2. 外国人市民に 情報を 提供する 方法
3. これからの 外国人市民会議

# 1. 外国人市民が 必要としている 情報

## 受けることができる 支援や サービスの 情報

国による 一律の サービスや 制度も あれば、自治体ごとに 施策を 進めていて、住んでいる 地域によって 異なる サービスも あります。例えば、自治体が 独自に 行っている 子育て支援の サービスや、外国人市民のための 通訳や 翻訳の 支援などです。また、困ったときに 相談することができる ところの 情報も 大切です。

知らなければ 制度も サービスも 利用することが できません。

富田林市に 生活している人が 受けることができる 支援や サービスの 情報を 外国人市民にも 分かりやすく 提供してください。

### 具体的な声

- 給付金や 手当の 情報は 大切であり、知りたい。
- 市役所の 窓口で 電話などによる 通訳サービスが 利用できることを 知らなかった。
- 他市で 行っている 子育て支援の サービスを 富田林市でも 行っている どうか知りたい。
- 分からないことを 相談できる ところを 知りたい。

## 日本の法律や制度、富田林市での生活に必要な情報

外国人市民は、日本の法律や制度が分からないために困ることがあります。出身国と日本のちがいに気づかずに行動し、「ルール違反だ」と言われて混乱することもあります。

また、ごみの分別方法や捨て方のように自治体ごとにルールが異なることにとまどうこともあります。

外国人市民が日本で生活する中で知っておく必要のあるルールや、富田林市で生活するために必要な情報を分かりやすく提供してください。

### 具体的な声

- 日本の税金の仕組みで分からないことがある。
- 日本にきたばかりの外国人市民の中には、自転車の二人乗りはルール違反になることを知らない人もいます。わざとルールに違反しているわけではない。
- 富田林市でもえるごみを捨てる時「ごみシール」を貼ることは、教えてもらわなければ分からない。
- 4月から子どもを保育園に預けるためには前の年の決められた時期に申し込みが必要だと知らなかった。
- 医療や保険の仕組みが出身国と日本で異なる。日本では夜間や休日に病院が閉まっているので、休日急病診療の情報を見つけられず、苦労したことがある。
- 外国語を話すことができる医者や病院、同じ国籍の子どもが通っている保育園の情報などが知りたい。

## 2. 外国人市民に 情報を 提供する 方法

### 多言語や「やさしい日本語」での 情報提供

外国人市民、特に日本語が十分に読めない人にとって、母語による情報はとても役立ちます。そして、「日本人だけでなく自分にも関係のある内容だ」と感じます。文書だけでなく、市役所などの窓口で相談するときにも通訳者が入ることで、より理解が深まります。

一方で、ある程度は調べたり、周りの人に聞いたりして自分でできるという人も多いです。例えば、自分の母語で書かれた記入見本があれば、申請書を自分で書くことができます。

また、日本語を学習している人にとって、「やさしい日本語」を使った会話や文章は分かりやすいです。

できるだけ多言語や「やさしい日本語」で情報を提供してください。

#### 具体的な声

- 日本語が分からない人は、自分の国の言葉で書かれている情報だけを探して読む。
- 英語で書かれても分からない。漢字の上にひらがなで読み方が書かれていると、日本語の意味までは分からなくても、読み方が分かる。同音異義語が多いので、すべてひらがなで書かれているより分かりやすい。

## 「誰一人取り残さない」ユニバーサルデザインの考え方を

富田林市は、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」という考え方を市政に取り入れ、まちづくりを進めています。

すべての人に情報を分かりやすく伝えるためには、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れることで、外国人市民だけでなくすべての市民にとって住みやすいまちづくりにつながるでしょう。

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、外国人市民のためだけでなくすべての人にとって分かりやすい情報提供をしてください。

### 具体的な声

- 市役所の窓口は漢字ばかりで、どの窓口に行けばいいかわからない。総合案内もどこにあるのかわかりにくい。まず総合案内を探せるように、「information」と英語表記するか、記号やピクトグラムなどを使って表していれば見つけやすい。
- 各窓口に数字やアルファベットが表示されていれば目的の窓口に行きやすい。

## ユニバーサルデザイン (Universal Design)

日本語に直訳すると「普遍的なデザイン」という意味です。

社会には、文化や言葉、国籍、年齢、性別、能力、からだの状況など、さまざまな違いのある多様な人々が共に生活しています。そのような違いがあっても、最初からできるだけ多くの人が利用できることをめざしたまちやもの、情報、サービスなどを提供していこうという考え方のことをいいます。

## 情報を 確実に 届けること

市が どんなに 多言語や「やさしい日本語」で 外国人市民向けの 情報を 発信しても、それが 当事者に 届かなければ 伝わりません。例えば、広報誌やウェブサイトの 一部に 外国人市民向けの 情報が 掲載されていても、たくさんの 情報の 中から それを 見つけることができる 人は 少ないでしょう。また、一度に たくさんの 書類や 資料を 渡されても、その すべてを よく 読むことは 難しいです。

また、一口に 外国人市民と 言っても、出身国や 言語、日本語能力、情報を 入手する 手段は さまざまです。どのような 情報提供の 方法が 有効であるか、当事者の 声を 聴いて 現状を 把握し、市と 外国人市民が 一緒に 考えていく 必要が あります。

外国人市民に 確実に 情報を 届ける 方法について 当事者と 共に 考え、実行して ください。

### 具体的な声

- 市が 作成している 外国人市民向けの 資料のことを 知らなかった。
- 読むことが 苦手な 人にとって、外国人市民向けの 資料であっても、文字数が 多すぎると 分かりにくい。
- 外国人市民が 富田林市で 生活するにあたって 必要な 情報や 知っておくと 役立つ 情報は、市役所での 転入手続きのときに 渡すと よい。
- SNS を 使った 情報発信は 有効だが、まず 市の アカウントが あることを 広く 知らせる 必要がある。
- 「外国人市民のための 生活お役立ちガイド」は、協力してくれる お店や マンションなどにも 貼り出してもらえると、より 多くの 人に見てもらえることができる。
- 外国人市民向けの 情報誌のようなものが あれば よいと思う。

### 3. これからの 外国人市民会議

第1期外国人市民会議では、これまで3年間かけて「外国人市民への情報提供のあり方」について話し合ってきました。その主な内容については前ページまでにまとめたとおりです。

しかし、「外国人市民への情報提供のあり方」について、これですべて話し尽くしたわけではなく、これからも考えていく必要があります。同時に、考えなければならないこと、話し合いたいことは、他にも多くあります。

例えば、「誰一人取り残さない」という理念を実現するために、外国人市民と地域との関わりをどのように考えるか。外国人市民は地域の一員として認めてほしいという思いをもっています。また、地域での多文化共生を考えるときには、外国人市民だけでなく、日本人側の意識について考えることも必要です。そのために、外国人市民が日本人市民からどのようにみられているのかという視点についても考えたいです。そして、富田林市が外国人市民にとっても生活するのに魅力的なまちであることをどのように発信するかということも重要な課題です。このように多様な人々が共生する社会の実現は、地域の発展につながると考えます。

外国人市民会議において話し合いたい課題はまだまだ多くあります。富田林市がこれからもこのような場を設け、私たちの声を活かして「多文化共生のまちづくり」を進めていくことを望みます。